

2012年2月15日発行

第562号(通算)

発行: 偶数月15日

会員購読料: 1月10円(年間60円)

一般購読は別途料金

環境保健・生活科学・コミュニティ活動の総合情報紙

# 環境と健康

発行者

HIROSHIMA ENVIRONMENT & HEALTH ASSOCIATION  
財団 法人 広島県環境保健協会

近光 章

広島市中区広瀬北町9番1号

郵便番号 730-8631

電話 082-293-1511番

振替口座01380-2-27511

URL <http://www.kanhokyō.or.jp/>



昭和三十年代の基礎研修。住民活動で活動資金について議論。健康感謝募金が生まれた(中)、昭和三十八年、衛生検査センターを開設し、寄生卵検査を展開(下)

戦後、私たちの生活環境は誠に劣悪でありました。そのため、「コレラ、赤痢などの伝染病が蔓延し、昭和二十一年から昭和二十三年までの三年間に全国での死者数は六万二千人をかぞえ、広島県でも一千六百人という多くの県民が伝染病により命を落としました。この事態に対応し、県知事を先頭に生活環境改善のため必死の努力を傾けてこられ、その中心となつたのが青木初代理事長でした。

昭和二十六年から始まった「蚊とハエのいない郷土建設運動」を通じ、公衆衛

生活活動に取り組み、県内の市町村公衆衛生推進協議会の結成をはじめ、その組織づくりを指導し、公衆衛

和二十二年から昭和二十三年までの三年間に全国での死者数は六万二千人をかぞえ、広島県でも一千六百人といいう多くの県民が伝染病により命を落としました。

この事態に対応し、県知事を先頭に生活環境改善のため必死の努力を傾けてこられ、その中心となつたのが青木初代理事長でした。

昭和二十六年から始まつた「蚊とハエのない郷土建設運動」を通じ、公衆衛

生活活動に取り組み、県内の市町村公衆衛生推進協議会が結集した社団法人広島県地区衛生組織連合会(県衛連)の設立時には、関係者や関係機関への理解を得るため昼夜を問わず東奔西走され、以来、県衛連の運営責任者として尽力してこられました。

この間、環境と健康のコミュニケーション活動を住民自ら

が実践する活動体系の確立を図り、地区組織活動を支援する事業活動を推し進められました。

そして、昭和三十一年、県内の公衆衛生推進協議会が結集した社団法人広島県地区衛生組織連合会(県衛連)の設立時には、関係者や関係機関への理解を得るため昼夜を問わず東奔西走され、以来、県衛連の運営責任者として尽力してこられました。

この間、環境と健康のコミュニケーション活動を住民自ら

が実践する活動体系の確立を図り、地区組織活動を支援する事業活動を推し進められました。

設立の当初は自主財源もなく、県衛連の組織基盤は脆弱であり、県の施設を借りて転々とし、費用は役員が自弁するなど、当初の資金面での苦労は大変なものでした。公衛協活動の財源づくりのため、昭和三十年には県内全世帯の協力を仰ぎ、公衆衛生活動資金募集を目的に「健康感謝募金運動」をスタートさせ、この募金活動は平成二十三年で第五十二回となり、地

域「ミニユーティの公衆衛生向上に役立っています。また、県衛連の経営を継続的に維持するため、昭和三十八年には現在の健康科学センターの前身となる衛生検査センターを開設し、経営基盤を確立するための資

金づくりに注力されました。さらに、昭和四十五年に設立された公害研究センターを開設し、その後、平成七年には県衛連を解散し、時代の要請に応じて、故人の生涯を振り返ります。

昭和四十年代、公害研究センターに完成した微生物検査室(上)、昭和四十九年、現在の所在地に公衆衛生会館が建設された(下)

これを完成させました。その後、平成七年には県衛連を解散し、時代の要請に応じて、故人の生涯を振り返ります。

昭和四十年代、公害研究センターに完成した微生物検査室(上)、昭和四十九年、現在の所在地に公衆衛生会館が建設された(下)

これを完成させました。

その後、平成七年には県衛連を解散し、時代の要請に応じて、故人の生涯を振り返ります。

昭和四十年代、公害研究センターに完成した微生物検査室(上)、昭和四十九年、現在の所在地に公衆衛生会館が建設された(下)

これを完成させました。